

要望書（回答）

1 IR構想の強力で継続的な推進

【回答】（総合政策部未来創造戦略室 担当）

人口減少と少子高齢化が進む本市においては、将来も持続可能なまちづくりを続けていくために、ものづくり産業のさらなる展開、臨海ゾーンにおけるロジスティクスの展開及び新たな成長戦略として臨空ゾーンにおけるIRを含む国際リゾート構想の実現にチャレンジしております。

IRの申請主体である北海道は、北海道らしいIRコンセプトを構築し、具体的な事業構想につなげていくなど、計画的に取り組んでいくという考え方を示していることから、本市としては、引き続き必要な取組について協力してまいりたいと考えております。

2 災害に強いまちづくりの構築

イ）津波浸水予測に基づく津波対策の強化（津波危険区域に避難施設を早期増設）

【回答】（市民生活部危機管理室 担当）

津波避難施設整備については、勇払地区と錦糸・ときわ地区の2カ所を重点地域として、順次、避難施設を整備していく方向性を固めたところです。

勇払地区については、今後予定されている勇払小中学校の再編に合わせた施設改修等において、避難施設を整備するとともに、これに先行し補完する対応として勇払公民館を一時避難施設として改修する予定です。

また、錦糸・ときわ地区については、旧ときわスケートセンター及びすこやか公園周辺へ、新しく避難施設を整備する予定です。

ロ) 構築年数が経過した構造物への耐震対策の強化継続

【回答】（都市建設部建築指導課、道路建設課、財政部財政課 担当）

公共建築物の耐震化につきましては、今後の施設需要を鑑みながら、優先順位をつけて、段階的な耐震化に努めてまいりたいと考えております。

また、橋梁の耐震化につきましては、市が管理している橋梁142橋のうち、耐震補強が必要な橋梁は24橋となっており、令和5年度末時点で21橋の耐震対策が完了しております。

残る3橋につきましても、今後実施する橋梁長寿命化修繕工事と併せて、耐震補強を行ってまいりたいと考えております。

ハ) 急傾斜地等の土砂災害対策の早期構築

【回答】（市民生活部危機管理室 担当）

急傾斜地等の土砂災害対策は、北海道において順次対策工事を実施しておりますが、北海道内の危険箇所は10,000カ所以上あり、要配慮者施設等を優先しているため、全体の整備完了には相当の時間を要すると伺っております。

市としましては、警戒区域の指定箇所周辺のパトロールや土砂災害ハザードマップの活用を進めるとともに、災害時においては関係機関と連携して早期避難を呼びかける等、ソフト対策を中心に市民の安全を確保してまいりたいと考えております。

ニ) 緊急車両の動線や市民避難路確保及び周知の継続(市道舗装道路平坦性 改善拡大)

【回答】（都市建設部維持課 担当）

市道の平坦性につきましては、これまでも路面性状調査（FWD試験）や地域要望などを基に、国の交付金や起債などを財源として、継続的に舗装修繕に取り組んでおり、今後も改善に向け取り組んでまいります。

（市民生活部危機管理室 担当）

避難路の周知につきましては、令和5年5月に全戸配布した地区別の津波ハザードマップに掲載し、周知しております。今後も地域での避難訓練や出前講座等において周知・啓発を継続してまいります。

ホ) 浸水・冠水対策の強化（新規）

【回答】（上下水道部下水道課 担当）

近年、都市化の進展や線状降水帯などによる大雨発生が増加に伴い、下水道の排水能力を超える雨水流出が頻発化し、道路冠水に至る場合がございます。

これまでも、10年降雨確率での雨水管整備や既存施設の改良など様々な対策を進めており、明野川流域では、3か所の吐口において、河川の排水制限に達するまで排水ポンプの能力増強を行うなど、浸水対策を進めてきたところでございます。

今後につきましても、引き続き、雨水管整備をはじめとする浸水対策に取り組み、安全・安心な市民生活の確保に努めてまいります。

へ) 台風・暴風による倒木対策（新規）

【回答】（都市建設部緑地公園課 担当）

市内の街路樹や公園樹木につきましては、これまでも本市の緑化専門職員により樹木の状態等について点検を行っているほか、「苫小牧市樹木維持管理方針」に基づき、樹木剪定や場合によっては伐採といった対応を実施しています。

今後につきましても、財政状況を勘案しながら、予防保全に努めてまいります。

ト) 通行車両の安全確保のための鹿対策（新規）

【回答】（都市建設部維持課、環境衛生部環境生活課 担当）

市道沼ノ端勇払線における鹿の横断対策については、道路幅員を超える範囲約3m程度まで、周囲の草刈を行い、自動車運転手の視認性を高める取り組みを行っており、一定の効果がみられていると認識しております。しかしながら、今後さらに道路交通への影響が増加するような場合には、道路照明灯の設置など、必要に応じた対策を関係部局と協議して講じていく必要があるものと考えております。

3 苫小牧東部地域へのラピダス関連企業等の誘致及び地元企業の活用（継続）

【回答】（産業経済部港湾・企業振興課 担当）

ラピダスの北海道進出により、千歳市や周辺自治体への半導体関連企業の集積や、それに伴う宅地・住宅開発等への期待が高まっております。

本市としましては、日本最大の産業地域であり陸海空の交通アクセスに優れ、ラピダスとの地理的優位性がある苫小牧東部地域への企業誘致を積極的に展開してまいります。

また、地元企業の活用につきましては、進出企業と地元企業の交流機会の場を設けるなど支援を行ってまいります。

4 都市環境の整備促進

イ) 市道東部南通線（臨港道路 東港南通）の勇払橋早期架替及び道路拡幅の早期実現（継続）

【回答】（都市建設部道路建設課 担当）

勇払橋架替につきましては、二級河川安平川水系河川整備計画にともなう河口部の河道拡幅や築堤整備の実施時期が現時点で明確になっていないことから、引き続き架替事業の実施に向けて、北海道室蘭建設管理部と連携を図りながら、協議・検討を行ってまいります。

また、市道東部南通線の拡幅整備につきましては、港湾計画において東港区の内陸掘込構想もあることから、今後とも関係機関との意見交換、情報共有に努めてまいります。

ロ) 美沢錦岡通の道路整備推進（道道昇格への要望・継続）

【回答】（総合政策部まちづくり推進課）

都市計画道路である美沢錦岡通は、広域交通を目的とする市街地への混入車両を排除するほか、災害時における避難ルートの確保など、市民生活の安全・安心のためにも重要な路線であると認識しております。

また、本路線の整備により苫小牧中央ICへのアクセスも容易となるため、ICの整備効果を高める上でも非常に有効なものとなります。

本市ではこれまで、本路線の一部区間を市道として暫定整備したことに加え、北海道に対する重点要望事項として道道昇格による整備の要望を行ってきたところですが、市民の安全・安心の確保や利便性向上に向け、引き続き、重点要望事項として北海道に対し整備を要望してまいります。

ハ) 植苗・美沢土地利用計画の整備促進（継続）

【回答】（総合政策部空港政策課 担当）

本計画につきましては、見直しの時期を迎えたため、植苗・美沢地域の皆様と協議をさせていただき、10年間の計画期間として、本年4月に改定いたしました。

「空港と自然を活かした子育てしやすいまちづくり」を目指し、「豊かな自然環境の保全」や「居住者の生活環境の向上」など4つの目標に対して、13の事業と26の取組を行うこととしております。

取組の中には、「国際リゾート構想の推進」や「先端科学産業の推進」など建設に関わる内容も含まれており、今後におきましても、都市環境の整備促進に努めてまいります。

ニ) JR線新千歳空港駅から苫小牧方面への増便などアクセス向上（継続）

【回答】（総合政策部まちづくり推進課）

JR新千歳空港駅から苫小牧方面へのアクセス向上は、空港利用者の利便性向上や、広域観光の誘客に高い効果が期待できるものであり、令和2年度から市の最重点要望事項に位置付け、継続して国や北海道に要望を行っております。

また、令和6年4月に行ったバス路線再編において、路線「30千歳空港線」の維持と、旅客機の発着に合わせた「101空港北口線」の新設を行いました。

引き続き、北海道やJR北海道など関係機関と緊密に連携を図り、地域の方々の協力もいただきながら取組みを進めてまいります。

ホ) 駅周辺ビジョンと居住促進を含めた都市再生について早期実現に向けた取り組みの強化（継続）

【回答】（総合政策部未来創造戦略室 担当）

本市では、駅周辺ビジョンに基づく基本構想をもとに、駅周辺の整備を“「創造的学び」と「暮らし」が出会う街。”をコンセプトに、機能毎にゾーニング分けを行いそれぞれの要素を盛り込むことで、中心市街地の魅力を向上させるとともに、民間事業者の投資意欲を喚起し、中心市街地居住を誘導していきたいと考えております。

今後、駅前再整備の進捗とともに、新たな補助制度の必要性についても検討するとともに、都市再生コンセプトプランの早期実現を目指してまいります。

へ) 苫小牧登別通（仮称）の道路整備の早期実現（道道昇格への要望・継続）

【回答】（総合政策部まちづくり推進課 担当）

本市と白老町及び登別市を結ぶ広域幹線道路としては、現状においては国道36号のみとなっており、令和2年3月に4車線化が完成しておりますが、苫小牧登別通の整備実現により、東胆振地域の道路ネットワークが更に強化され、噴火や津波など災害時における地域の安全・安心の確保につながるものと認識しております。

また、令和2年7月に開業したウポポイ（民族共生象徴空間）へのアクセス性も向上することから、広域的な観光産業の進展にも寄与するものと考えております。

これまでも白老町と連携しながら、本市の最重点要望事項として北海道に対して道道昇格による整備を要望してきたところではありますが、今後につきましても、この活動を継続してまいります。

5 令和7年度公共事業の予算枠拡大並びに発注時期の平準化（継続）

【回答】（財政部財政課 担当）

令和7年度は、継続事業となっている日新団地の建替や植苗小中学校改修事業などに取り組んでまいります。公共事業につきましては、国の地方に対する様々な経済対策や地財計画を踏まえ、財政の健全性を確保しながら予算化に努めてまいります。

（財政部契約課 担当）

発注に当たりましては、債務負担行為等を活用して早期発注に努めるほか、受注者が人員配置等の体制の事情に応じて、市が定めた工事着手期限までの間で工事開始日を選択できる、余裕期間設定工事を令和3年度から本格実施しており、計画的な工事発注によって、引き続き平準化に努めてまいりたいと考えております。

6 発注工事に関する改善

イ) 土木・建築工事における、あらゆる発注工事の地元企業の活用（継続）

【回答】（財政部契約課 担当）

本市では苫小牧市公契約基本方針に基づき、地元企業の優先活用を図っております。

本市発注の工事につきましては、市内に受注業者がない、または限られている場合など、十分な競争性が確保されない恐れがある場合を除き、地元企業であることを応札の条件としており、今後も継続してまいります。

ロ) 働き方改革推進に向け週休2日制完全実施と余裕ある工期の設定（継続）

【回答】（財政部契約課 担当）

本市では建設業の働き方改革、人手不足対策などの観点から、令和3年度より、発注工事における週休2日制の試行導入を実施し、年々対象工事数を増加させておりますが、完全実施の時期については、現在関係部局間で検討を進めているところでございます。

また、フレックス方式等の余裕のある工期の設定方法につきましても、今後課題を整理しながら検討してまいりたいと考えております。

ハ) 労務単価、建設資機材の実勢価格の把握と反映（見積活用方式・単品スライド等の活用）（継続）

【回答】（財政部契約課 担当）

発注金額の設定については、単に実績額のみを指標にすることなく、資材や人件費の価格上昇など市場実態や物価動向を反映した額とするよう努めております。

見積活用方式の導入につきましては、北海道等において入札不調・不落が発生している工事への対策として試行導入しているところです。本市では今年度機械器具設置工事入札の一部において不調・不落となったものの、その要因は労務費や資材価格の高騰によるものではありませんでした。また、他の工種においても入札不調・不落は発生していないところです。

入札不調・不落が発生した場合は、その要因を分析しながら、適正な設計価格となるよう引き続き努めてまいりたいと考えております。

契約後における賃金や資材費等の急激な変動につきましては、インフレスライドや単品スライドを適用し、対応しているところでございます。

ニ) 工事現場業務の効率化 (DX化、小型コンクリート構造物のプレキャスト化) の検討

【回答】 (都市建設部道路建設課 担当)

工事現場における監督・調査のASP化につきましては、主に国や北海道の土木分野で実施されていることは承知しておりますが、システムの運用に際しては、受注者側の統一された環境整備が必要であることから、今後ASPの試行などについて調査検討してまいりたいと考えております。

また、書類の簡素化やDX化につきましては、さらなる効率化につながる業務項目を抽出したうえで、実現の可能性について検討してまいりたいと考えております。

コンクリート構造物のプレキャスト化につきましては、成果の品質向上、工期短縮につながる製品があれば、試験的に採用してまいりたいと考えております。